



平成23年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成22年11月8日

上場会社名 東洋インキ製造株式会社

上場取引所 東

コード番号 4634 URL <http://www.toyoink.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 佐久間 国雄

問合せ先責任者 (役職名) 取締役財務担当

(氏名) 青山 裕也

TEL 03-3272-5731

四半期報告書提出予定日 平成22年11月12日

配当支払開始予定日

平成22年12月6日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家、証券アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成23年3月期第2四半期の連結業績(平成22年4月1日～平成22年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
23年3月期第2四半期	122,009	12.5	10,048	99.9	9,914	96.8	5,913	172.4
22年3月期第2四半期	108,469	△13.7	5,027	22.3	5,037	18.5	2,170	92.9

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
23年3月期第2四半期	19.82	—
22年3月期第2四半期	7.18	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
23年3月期第2四半期	268,609	142,605	51.7	465.10
22年3月期	266,463	144,943	52.2	466.41

(参考) 自己資本 23年3月期第2四半期 138,792百万円 22年3月期 139,186百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
22年3月期	—	4.50	—	5.50	10.00
23年3月期	—	6.00	—	—	—
23年3月期(予想)	—	—	—	6.00	12.00

(注)当四半期における配当予想の修正有無 有

3. 平成23年3月期の連結業績予想(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	245,000	8.4	17,700	32.7	17,500	28.6	10,000	52.5	33.51

(注)当四半期における業績予想の修正有無 有

4. その他（詳細は、添付資料の4ページ「2. その他の情報」をご覧ください。）

(1) 当四半期中における重要な子会社の異動 無

（注）当四半期会計期間における連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動の有無となります。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用 無

（注）簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

- ① 会計基準等の改正に伴う変更 有
- ② ①以外の変更 無

（注）「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	23年3月期2Q	303,108,724株	22年3月期	303,108,724株
② 期末自己株式数	23年3月期2Q	4,696,930株	22年3月期	4,687,741株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	23年3月期2Q	298,415,185株	22年3月期2Q	302,445,484株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1. 配当について、平成22年8月6日に公表した数値から、本資料において修正しております。詳細につきましては、本日公表いたしました「剰余金の配当及び配当予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

2. 平成22年8月6日に公表いたしました連結業績予想のうち、通期について本資料において修正しております。当該予想に関する事項につきましては、添付資料の3ページ「1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報(3) 連結業績予想に関する定性的情報」及び本日公表いたしました「業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

3. 上記に記載した予想数値は、本資料発表日現在において入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る本資料発表日現在における仮定を前提としております。実際の業績は、今後の様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。業績予想の前提となる仮定及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等につきましては、添付資料の3ページ「1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報(3) 連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. その他の情報	4
(1) 重要な子会社の異動の概要	4
(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要	4
(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 継続企業の前提に関する注記	9
(5) セグメント情報	9
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	10

※ 当社は、以下のとおり投資家向けの説明会を開催いたします。この説明会で使用する決算説明会資料につきましては、決算説明会終了後に当社ホームページにて掲載する予定です。

・平成22年11月26日（金）・・・・・・機関投資家・証券アナリスト向け決算説明会

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間における世界経済は、中国を始めとする新興国の堅調な内需に牽引され、緩やかな回復方向にあるものの、再び欧米で景況感が悪化しつつあるうえ、急激な円高により、わが国の輸出も鈍ってきており、景気回復は足踏み状態に陥りつつあります。

このような厳しい環境のなか、日本国内では引き続き印刷市場の低迷などにより、売上高は伸び悩みましたが、高機能製品の拡販、コストダウンの推進により、利益は伸長しました。また海外は、中国や東南アジアでの好調が続いているうえ、比較対象となる前年同期が世界的な不況から回復が進んでいない時期にあたるため、大幅な増収増益になりました。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は1,220億9百万円（前年同期比12.5%増）、営業利益は100億48百万円（前年同期比99.9%増）、経常利益は99億14百万円（前年同期比96.8%増）、四半期純利益は59億13百万円（前年同期比172.4%増）となりました。

報告セグメントのそれぞれの業績は、次のとおりであります。

① 印刷・情報関連事業

オフセットインキは、国内では、主力の枚葉、オフ輪、新聞インキとも、市場が縮小するなか、伸び悩みが続きました。また原材料価格の高騰が利益を圧迫したうえ、急激な円高により輸出品の採算がさらに悪化しました。

一方、中国では需要の回復や万博特需がありましたうえ、内陸部などへの拡販も進みました。また東南アジアでも需要が回復、インドでの拡販も進んでいます。さらにインクジェット材料も、韓国などへの拡販が進みました。

グラフィックアーツ関連機器は、国内印刷市場の業績低迷による設備投資圧縮が影響し、紙面検査装置などの小型機器から大型印刷機械の販売に至るまで、低調に推移しました。またグラフィックアーツ関連材料も、伸び悩みが続きました。

これらの結果、当事業全体の売上高は379億4百万円、営業利益は13億7百万円となりました。

② パッケージ関連事業

グラビアインキは、国内では主力の包装用の需要が堅調、特に猛暑により飲料関連の包装や段ボール向けが伸長しました。また出版用も通販関連でやや需要が回復しましたうえ、建築材用も輸出印刷物向けが堅調に推移しました。

海外では、中国や東南アジアでの食品包装用の需要が伸長、国内と同様に環境対応インキの拡販も進みました。また北米では建築材向け需要が回復してきたうえ、フレキソインキの拡販も進みました。

国内のグラビア印刷用シリンダー製版事業は、食品包装用の需要回復により堅調に推移しましたが、機器販売は顧客の設備投資抑制から低調でした。

これらの結果、当事業全体の売上高は269億70百万円、営業利益は16億70百万円となりました。

③ ポリマー・塗加工関連事業

缶用塗料（フィニッシュ）は、国内では主力の飲料缶用が、期初は天候不順により伸び悩みましたものの、夏場は記録的な猛暑により伸長しました。また東南アジアは、飲料缶需要の拡大に伴い、好調に推移しました。一方、樹脂は国内の建築関連向けの伸び悩みが続きました。

接着剤は、国内や韓国、東南アジアでの包装用の需要が堅調なうえ、太陽電池向けも伸長しました。また粘着剤は、ラベル用が堅調なうえ、ディスプレイ向けやエレクトロニクス向けが好調に推移しました。さらに塗工材料も、韓国や中国、台湾でのエレクトロニクス向け材料の拡販が進みました。なお接着剤事業の展開強化を図るため、本年6月に連結子会社である東洋モートン株式会社（従来の議決権比率は50%）の全株式を取得、完全子会社化いたしました。

これらの結果、当事業全体の売上高は259億43百万円、営業利益は22億41百万円となりました。

④ 色材・機能材関連事業

汎用顔料は、自動車関連は好調に推移したものの、国内の印刷インキ向けは伸び悩みが続きました。また利益面では、一部の原材料価格の急騰や円高による輸出品の利益圧迫が進みました。

プラスチック用着色剤は、国内、海外とも、補助金や減税などの景気回復策により、自動車向けや家電向けが好調に推移、OA機器向けや容器向けも堅調なうえ、エレクトロニクス関連の拡販も進みました。

高機能顔料や液晶ディスプレイカラーフィルター用材料は、中国などの新興国での旺盛なテレビ需要に加え、

国内でも新型テレビの発売や地デジ化対応により需要が喚起されたうえ、パソコンや携帯電話向けの中小型パネル需要も回復しましたため、好調に推移しました。しかし秋口より、テレビ用を中心にディスプレイ関連市場の在庫調整が始まっており、今後の需要は鈍化するものと見込まれます。

これらの結果、当事業全体の売上高は314億47百万円、営業利益は46億81百万円となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間の総資産の期末残高は2,686億9百万円で、期首残高より21億46百万円増加しました。負債の期末残高は1,260億3百万円で、期首残高より44億83百万円増加しました。純資産の期末残高は1,426億5百万円で、期首残高より23億37百万円減少しました。

売上が好調に推移したため現金及び預金、売上債権と仕入債務が増加しましたが、株式市況の低迷により投資有価証券、その他有価証券評価差額金が減少しました。また、設備投資を抑制したことにより有形固定資産が減少しました。

(キャッシュ・フローの状況)

当第2四半期連結累計期間の現金及び現金同等物（以下「資金」といいます。）の期末残高は、期首残高より23億94百万円増加し、234億31百万円となりました。

営業活動により得られた資金は104億72百万円となりました。税金等調整前四半期純利益などによる資金増加があった一方で、法人税等の支払いに伴う資金減少もありました。また、売上債権と仕入債務が増加したことによる資金増減がありました。

投資活動により使用した資金は63億8百万円となりました。有形固定資産の取得に加え、東洋モートン株式会社の完全子会社化に伴う支出がありました。

財務活動により使用した資金は13億63百万円となりました。配当金の支払に伴う支出などによるものです。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間におきましては、国内印刷市場向けの販売が伸び悩みましたものの、ポリマー・塗加工及び色材・機能材関連の高機能製品が好調に推移するとともに、コストダウンも進みましたため、予想を上回る利益を計上することができました。

第3四半期以降においては、国内印刷市場の引き続き低迷、国内外の景気の陰り、液晶市場の在庫調整などにより、需要の鈍化が見込まれるうえ、円高による海外子会社売上高の為替換算額が目減りもあり、売上高は伸び悩みが続くものと予想されます。また原材料価格の上昇や円高に伴う輸出品の採算性悪化も進み、利益も圧迫されると見込まれます。

このような状況を踏まえ、通期の連結業績予想を、本日同時公表しました「業績予想の修正に関するお知らせ」のとおり、売上高2,450億円、営業利益177億円、経常利益175億円、当期純利益100億円に修正いたしました。

2. その他の情報

(1) 重要な子会社の異動の概要

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

該当事項はありません。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

・会計処理基準に関する事項の変更

1. 資産除去債務に関する会計基準の適用

第1四半期連結会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」（企業会計基準第18号 平成20年3月31日）及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日）を適用しております。

これにより、当第2四半期連結累計期間の営業利益及び経常利益が1百万円それぞれ減少し、税金等調整前四半期純利益が38百万円減少しております。また、当会計基準等の適用開始による資産除去債務の変動額は30百万円であります。

2. 「持分法に関する会計基準」及び「持分法適用関連会社の会計処理に関する当面の取扱い」の適用

第1四半期連結会計期間より、「持分法に関する会計基準」（企業会計基準第16号 平成20年3月10日公表分）及び「持分法適用関連会社の会計処理に関する当面の取扱い」（実務対応報告第24号 平成20年3月10日）を適用し、連結決算上必要な修正を行っております。

これにより、当第2四半期連結累計期間の経常利益及び税金等調整前四半期純利益は、それぞれ2百万円増加しております。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成22年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	23,393	21,037
受取手形及び売掛金	81,076	78,520
有価証券	717	696
商品及び製品	21,802	21,624
仕掛品	1,211	1,323
原材料及び貯蔵品	10,617	9,980
繰延税金資産	2,474	2,280
その他	3,107	2,159
貸倒引当金	△765	△711
流動資産合計	143,635	136,912
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	81,059	81,388
減価償却累計額	△48,985	△48,467
建物及び構築物(純額)	32,073	32,920
機械装置及び運搬具	129,456	130,614
減価償却累計額	△108,477	△107,508
機械装置及び運搬具(純額)	20,979	23,106
工具、器具及び備品	20,338	19,938
減価償却累計額	△17,719	△17,318
工具、器具及び備品(純額)	2,618	2,620
土地	26,592	26,674
リース資産	93	77
減価償却累計額	△39	△32
リース資産(純額)	54	44
建設仮勘定	1,569	1,294
有形固定資産合計	83,887	86,661
無形固定資産	1,117	297
投資その他の資産		
投資有価証券	26,865	30,794
繰延税金資産	2,046	1,194
その他	11,829	11,273
貸倒引当金	△772	△669
投資その他の資産合計	39,969	42,592
固定資産合計	124,974	129,551
資産合計	268,609	266,463

(単位：百万円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成22年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	39,408	36,610
短期借入金	16,106	16,341
未払法人税等	3,222	1,365
その他	13,128	12,619
流動負債合計	71,866	66,937
固定負債		
長期借入金	50,311	50,317
繰延税金負債	1,520	2,225
退職給付引当金	1,265	1,325
環境対策引当金	337	339
資産除去債務	30	—
その他	670	375
固定負債合計	54,137	54,582
負債合計	126,003	121,519
純資産の部		
株主資本		
資本金	31,733	31,733
資本剰余金	32,920	32,920
利益剰余金	87,934	83,661
自己株式	△1,721	△1,718
株主資本合計	150,866	146,596
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△2,781	△112
為替換算調整勘定	△9,292	△7,297
評価・換算差額等合計	△12,074	△7,409
少数株主持分	3,813	5,756
純資産合計	142,605	144,943
負債純資産合計	268,609	266,463

(2) 四半期連結損益計算書
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)
売上高	108,469	122,009
売上原価	84,086	92,269
売上総利益	24,382	29,740
販売費及び一般管理費		
荷造運搬費	2,730	2,936
給料及び手当	4,833	4,742
賞与	1,188	1,264
福利厚生費	1,234	1,211
減価償却費	639	535
研究開発費	1,287	1,555
その他	7,441	7,444
販売費及び一般管理費合計	19,354	19,691
営業利益	5,027	10,048
営業外収益		
受取利息	61	47
受取配当金	241	251
為替差益	56	—
持分法による投資利益	—	72
その他	536	550
営業外収益合計	896	921
営業外費用		
支払利息	560	492
為替差損	—	333
持分法による投資損失	33	—
その他	292	230
営業外費用合計	886	1,056
経常利益	5,037	9,914
特別利益		
固定資産売却益	9	6
投資有価証券売却益	12	—
その他	—	0
特別利益合計	21	6
特別損失		
固定資産除売却損	114	157
投資有価証券評価損	—	317
債務保証損失引当金繰入額	156	—
関係会社厚生年金基金脱退損	81	—
その他	42	85
特別損失合計	395	560
税金等調整前四半期純利益	4,663	9,360
法人税、住民税及び事業税	810	3,248
法人税等調整額	1,419	△130
法人税等合計	2,230	3,117
少数株主損益調整前四半期純利益	—	6,242
少数株主利益	262	329
四半期純利益	2,170	5,913

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	4,663	9,360
減価償却費	5,324	4,751
受取利息及び受取配当金	△303	△298
支払利息	560	492
有形固定資産除却損	60	77
投資有価証券評価損益 (△は益)	—	317
持分法による投資損益 (△は益)	33	△72
売上債権の増減額 (△は増加)	△434	△3,936
たな卸資産の増減額 (△は増加)	2,740	△1,510
仕入債務の増減額 (△は減少)	605	3,472
その他	△613	△712
小計	12,636	11,941
利息及び配当金の受取額	304	346
利息の支払額	△573	△501
法人税等の支払額	△695	△1,314
営業活動によるキャッシュ・フロー	11,672	10,472
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△285	△226
定期預金の払戻による収入	155	348
有形固定資産の取得による支出	△2,887	△2,746
有形固定資産の売却による収入	27	35
投資有価証券の取得による支出	△757	△1,483
投資有価証券の売却による収入	87	660
子会社株式の取得による支出	—	△2,797
その他	191	△98
投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,468	△6,308
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	326	485
配当金の支払額	△1,360	△1,641
少数株主への配当金の支払額	△269	△147
その他	△111	△61
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,415	△1,363
現金及び現金同等物に係る換算差額	559	△406
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	7,347	2,394
現金及び現金同等物の期首残高	12,468	21,037
現金及び現金同等物の四半期末残高	19,815	23,431

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報

[事業の種類別セグメント情報]

前第2四半期連結累計期間(自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日)

	印刷 インキ (百万円)	グラフィック アーツ 関連機器 及び材料 (百万円)	高分子関連 材料 (百万円)	化成品及び メディア 材料 (百万円)	その他 (百万円)	計 (百万円)	消去又は 全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高								
(1) 外部顧客に 対する売上高	46,627	12,369	23,949	23,226	2,296	108,469	—	108,469
(2) セグメント間の 内部売上高又は 振替高	293	22	876	678	531	2,402	(2,402)	—
計	46,920	12,391	24,825	23,905	2,828	110,872	(2,402)	108,469
営業利益	3,817	174	3,085	2,735	56	9,869	(4,841)	5,027

(注) 1 事業区分は製品系列を基礎とし、市場の類似性も考慮して区分しております。

2 各事業の主要な製品

(1) 印刷インキ……………オフセットインキ、グラビアインキ等

(2) グラフィックアーツ関連機器及び材料……………印刷機械、印刷機器、プリプレスシステム、印刷材料、グラビアシリンダー製版等

(3) 高分子関連材料……………缶用内外面塗料、金属インキ、樹脂、接着剤、ワックス、塗工材料等

(4) 化成品及びメディア材料……………有機顔料、加工顔料、合成樹脂着色剤、着色樹脂、カラーフィルター用材料、電子材料、インクジェット材料等

(5) その他……………天然材料、役務提供等

[セグメント情報]

1. 報告セグメントの概要

当企業グループの報告セグメントは、当企業グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会等が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当企業グループは、事業の種類・性質の類似性等を勘案して、「印刷・情報関連事業」、「パッケージ関連事業」、「ポリマー・塗加工関連事業」及び「色材・機能材関連事業」の4つの事業に区分しており、これを報告セグメントとしております。各事業は取り扱う製品・サービスごとに国内及び海外の包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しております。

「印刷・情報関連事業」は、オフセットインキ、金属インキ、印刷機械、印刷機器、プリプレスシステム、印刷材料及びインクジェット材料等を製造・販売しております。「パッケージ関連事業」は、グラビアインキ及びグラビアシリンダー製版等を製造・販売しております。「ポリマー・塗加工関連事業」は、缶用内外面塗料、樹脂、接着剤、ワックス、塗工材料及び天然材料等を製造・販売しております。「色材・機能材関連事業」は、有機顔料、加工顔料、プラスチック用着色剤、着色樹脂、カラーフィルター用材料等を製造・販売しております。

2. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

当第2四半期連結累計期間（自平成22年4月1日至平成22年9月30日）

（単位：百万円）

	報告セグメント					その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注3)
	印刷・情報 関連事業	パッケージ 関連事業	ポリマー・ 塗加工 関連事業	色材・ 機能材 関連事業	計				
売上高									
外部顧客への売上高	37,736	26,459	25,169	30,179	119,544	2,465	122,009	—	122,009
セグメント間の内部 売上高又は振替高	168	510	773	1,267	2,720	990	3,711	(3,711)	—
計	37,904	26,970	25,943	31,447	122,265	3,455	125,721	(3,711)	122,009
セグメント利益 又は損失(△)	1,307	1,670	2,241	4,681	9,901	△139	9,761	287	10,048

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、役員提供等を含んでおります。

2 セグメント利益又は損失の調整額287百万円は、セグメント間取引消去等であります。

3 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(追加情報)

第1四半期連結会計期間より、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」（企業会計基準第17号 平成21年3月27日）及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日）を適用しております。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。